

2016年春季生活闘争回答に関する談話

J A M

書記長 河野哲也

- J A Mは、中小、サプライヤーにおける賃金改善・格差是正を重要な課題として、月例賃金の引き上げにこだわった共闘運動を展開している。
- J A Mは、3月15日・16日の回答指定日を迎え、A・B共闘グループを中心に多くの組合が回答を引き出した。
- 3月16日、午前9時現在、全体の状況把握には至っていないが、現時点における回答状況における見解を示す。

<現時点における認識>

1. 経営側は、賃上げの社会的要請に一定の理解を示すものの、諸環境の悪化と先行不透明を理由に年収ベースでの対応を主張している。組合は、「デフレ脱却と経済の好循環」の実現に向けて精力的な交渉を重ね、多くの組合で賃金構造維持分に加えて改善分を獲得している。
2. 過年度物価上昇がない中で、4ケタの改善分は賃金改善・格差是正につながる成果である。
3. 中小における格差是正を求める取り組みは、多くの組合が賃金改善を要求し、300人未満の組合における獲得額が大手を超える水準を確保している。これは、格差是正を求め、粘り強く主張した成果である。

<今後の取り組み>

1. 今後、回答を引き出す組合においては、賃金水準や人材確保・育成などを踏まえ、徹底した労使の議論により「賃金改善・格差是正」の取り組みを進め、回答の引き出しに全力をあげる。
2. J A M本部、地方 J A M闘争委員会は共闘を一層高めるため、賃金構造維持分を含む情報開示を強化するとともに、公正取引の実現を図る取り組みを展開する。
3. 企業内の有期労働者の処遇改善や企業内最低賃金の引き上げの取り組みについても、労働者全体の「底上げ・底支え」の観点から積極的な交渉を展開する。

以上